

神経・筋難病病棟に配属された新人看護師の 意識調査：9 ヶ月間の推移

仁木裕子^{#1} 佐藤由美^{#1}

^{#1} 独立行政法人 国立病院機構 徳島病院 看護部 776-8585 徳島県吉野川市鴨島町敷地 1354 番地

受付 2019. 2. 28 受理 2019. 3. 8

要旨

特殊な看護を必要とする神経・筋難病病棟の看護業務に携わる新人看護師に対し、どのような教育・支援が必要であるかを明らかにするため、意識調査を経時的に実施した。対象は、平成 29 年度 A 病院新人看護師 9 名に協力の意思を確認、同意を得られた 8 名。入職後 3 ヶ月目（夜勤導入前）、5 ヶ月目（夜勤導入後）、9 ヶ月目（一人でできることが増えていた時期）に面接を実施し、インタビュー内容を文章化した。その結果、新人看護師は、経験や体験をする中で疲れや不安を感じながらも自分を振り返り、自信や課題を言葉で伝えていた。新人看護師は、神経・筋難病患者との関わりの中でコミュニケーションや病状の進行に伴う個別的な看護の難しさを感じていた。今後の課題として、新人看護師が成功体験を実感できるよう、個々の成長に合わせた支援が必要である。

キーワード：新人看護師 インタビュー 気持ちの変化

はじめに

A 病院は神経筋疾患分野別拠点施設である。患者は人工呼吸器を装着し長期療養している患者が多く、患者の状態に応じてコミュニケーション方法が異なり特殊なナースコールの使用や体位調整など個別対応が必要とされる。そのため、A 病院新人看護師は、患者との関わりに不安を感じ、できない自分に対しての焦りや疲れを言葉で伝えていた。先行研究において坂野ら¹⁾は、「神経難病患者をケアする看護師のストレスは『仕事の多さに関すること』『患者への関わりの難しさに関すること』『ケアに関すること』が上位を占めていた。」と述べている。そのため、神経・筋難病患者との関わりでは、人と接する機会が少なく精神的に未熟とされる新人看護師にとって精神的負担が大きいと予測される。今回、新人看護師にインタビューを行った

結果を基に、神経・筋難病患者との関わりでの体験・経験から気持ちの変化を明らかにする。そして、新人看護師への支援方法について振りかえることを目的に本研究に取り組んだ。

対象と方法

対象は、平成 29 年度 A 病院新人看護師 9 名に協力の意思を確認、同意を得られた 8 名。平成 29 年度新人看護師 9 名を対象に独自で作成したインタビューガイドを基に入職後 3 ヶ月目（夜勤導入前）、5 ヶ月目（夜勤導入後）、9 ヶ月目（一人でできることが増えていた時期）に面接を実施し、インタビュー内容を文章化した。インタビューガイドでは、新人看護師が患者との信頼関係を構築し自信をもって看護実践できることを目指し作成を行った。入職後 3 ヶ月目では、患者との関わり状況や不安に感じること、職場で迷ったときの相談者や支援状況を記

Correspondence to: 仁木 裕子, 独立行政法人 国立病院機構 徳島病院 看護部 776-8585 徳島県吉野川市鴨島町敷地 1354 番地 Phone: +81-88-324-2161 Fax: +81-88-324-8661

載した。入職後 5 ヶ月目では健康状態、人間関係や職場環境での悩み、看護実践で楽しいと感じること、頑張っていることを記載した。入職後 9 ヶ月目では、仕事に対するモチベーションや悩み、看護ケアや技術面での不安、今頑張っていることについて記載した。面接では、発言が少なく、漠然とした不安や悩みを伝える新人看護師に対して、患者との関わりからどんな体験をしてどう感じたか、支援はどうであったか具体的に提案をしながら実施した。

対象者に協力の意思を確認、同意を得られた 8 名の新人看護師のインタビュー結果について分析を行った。

インタビュー内容は、文脈における意味、発言の意図に細心の注意を払い意味のまとまりごとに切り取りコード化した。次に、抽出したコードの類似性と相違点に着目して、サブカテゴリー、カテゴリーへと抽象度をあげ、それぞれの段階でネーミングを行った。さらに抽出されたカテゴリーの関連を検討した。データの分析過程においては看護師長間で試行錯誤を繰り返し、さらに期間をおいて再度カテゴリーについて見直した。

倫理的配慮

A 病院倫理審査委員会で承認を得た。対象者には、研究の目的や方法、期待される結果について、対象者ひとりひとりに対し理解を確認しながら紙面で説明した。また、研究への参加については自由であり、自らが対象になる意思で参加できること、拒否することで不利益を生じないこと、個人が特定されないよう個人情報保護に努め、得たデータについては学会発表等の研究以外に使用しないことを説明し、同意書をもって承諾を得た。

本演題に関しては、開示すべき利益相反関係にある企業等はない。

結果

インタビュー内容を分析した結果、入職後 3 ヶ月目は 64 コードから 4 カテゴリー・11 サブカテゴリー、入職後 5 ヶ月目は 96 コードから 4 カテゴリー・11 サブカテゴリー、入職後 9 ヶ月目は 79 コードから 4 カテゴリー

11 サブカテゴリーが抽出された。以下カテゴリーは【】、サブカテゴリーは〈〉、インタビューの語りは「」で示す(表 1)。

1. 入職後 3 ヶ月目のインタビュー結果

【仕事や職場環境に馴染めず疲れを感じているでは、】初めての職場環境で新人看護師は「緊張する、慣れていない」「ついていくことに必死である」と〈職場の中に居場所を感じられない〉と感じていた。また「ついていけない、患者の個別性が高い」「今後自分でこなしていけるか不安」と〈実施したことに対してもこれからのことに対しても不安であり、自信となることが見つけられない〉と感じていた。神経・筋難病患者は読唇、文字盤といったコミュニケーションの難しさや拘縮・変形といった身体症状から看護ケア一つに個別性がある。新人看護師は、慣れない環境への緊張感と患者との関わりや熟練した看護師の姿を見て自分に自信が持てず多くの不安を語っていた。

【看護ケアや技術に不安を感じている】では、「ポジショニング等できていない」と個別性が高い神経・筋難病看護を行うことに対して、できているという確信が持てず〈看護ケアや看護技術に不安がある〉と感じていた。その反面「不安な技術もない」と〈少ない経験の中で教えられることがすべてであると感している〉と感じていた。

【前向きな気持ちで仕事に向き合っている】では、患者との関わりを積み重ねることで患者から伝えられる言葉は新人看護師の自信につながり「患者に名前を覚えてもらって声かけてもらっている」と〈患者との信頼関係を構築している〉と感じており、健康面にも影響し〈元気に過ごせている〉と感じていた。そして、自信を持てることで「早く仕事に慣れたい」と〈自立した看護師になりたいと思っている〉と感じていた。

【職場環境に慣れようと自分で努力をしている】では、「声かけやすい人に聞いている」と語り、新人看護師は良好な人間関係が築けることで前向きな気持ちとなり〈相談相手があり、自分の居場所であると感じている〉と語っていた。また、「ベッドサイドでできることが多くなった」「薬の字が読めない時は聞いている」と語り〈注意を払って看護ケアを実施している〉と感じ、新人看護師は経験をしながら考えて判断する力をつけて

いた。

2. 入職後5ヶ月目のインタビュー結果

【仕事や職場環境に慣れてきて気持ちが安定している】では、新人看護師は入職して5か月が経ち〈職場環境に慣れてきて悩んでいることはない〉と感じており「夜勤もはじまっているが、特に疲れていない」「リフレッシュしている」と〈仕事と生活のバランスが取れている〉と語っていた。

【人間関係や経験を通じて看護師として認められやすいと感じている】では、新人看護師は、「ケアをさせてくれない患者に自分を受け入れてもらえるように頑張りたい」「ある患者と読唇でコミュニケーションがとれ、会話が弾むようになった」と〈患者との関わりの中で仕事との楽しさを感じている〉と語り、3ヶ月と比較し患者とのコミュニケーションに自信が付き、その喜びを言葉で伝えていた。また、「最近では入退院のことができるようになり、できることが増えた」と〈成功体験を通じて喜びを感じている〉ことや「先輩にはやりながら教えてほしい」と〈先輩看護師との関係性が良いと感じている〉と語り、他者との人間関係が明確になり成功体験することも増え、やりがいへと繋がっていた。

【経験したことを自分の中で振り返っている】では、新人看護師は「技術チェックの確認はまだしてもらっていない」と〈経験すべきことを認識してその中でできていないことに対して不安がある〉と感じながら、「気付きを早くしたい」「できることを増やしていきたい」と〈自分がこれから気を付けていこうと思っていること〉や「患者のそばを離れるときには一度見て確認し離れるようにしている」と〈自分がすべき課題を理解してきている〉と感じていた。新人看護師は経験・体験したことを振り返り、考えて行動できるように課題をもっていた。

【仕事に疲れを感じ何も考えられない】では、新人看護師は、自信と喜びを言葉で語るだけでなく、夜勤をこなすことで疲れを感じ「深夜の帰りが眠たい」「元気、深夜が疲れる」と〈仕事に対しての疲れを感じている〉と語り、言葉で伝えることができない気持ちが「(今頑張りたいこと)特に思い浮かばない」と語り〈意欲がわからない〉と感じていた。

3. 入職後9ヶ月目のインタビュー結果

【良好な人間関係を築くことができ自分の気持ちを言葉に表現できている】では、新人看護師は「悩みの相談をしあっている」と語り〈自分の居場所を見つけて気持ちの表出ができている〉ことや「みんな優しい」「いろいろさせてもらっている」と語り〈良好な人間関係が築けて周囲への感謝の言葉となっている〉と表現していた。このことから、職場環境への適応と自分を支援してくれた周囲への感謝の気持ちを表現していた。また、「みんなが苦手な患者がいるが私には優しい」「患者ケアをしてお礼を言われると嬉しい」と語り〈患者との関わりの中で看護師として認められて嬉しい〉と感じており、経験・体験を繰り返す中で自己成長できている自分を喜びの言葉として伝えていた。

【仕事や職場環境に慣れてきて気持ちが安定している】では、新人看護師は、〈患者との関わりの中で自分の振り返りができている〉ことや「寝てストレス解消している」「精神面は共感してもらってスッキリしている」と語り〈仕事と生活のバランスが取れておりストレスとうまくつきあっている〉と感じていた。【看護師を続けていくことへの自信が持て今後の課題を考えることができている】では、新人看護師は「以前は患者に言われる通りだったが、個別性も分かり対応できる」と〈仕事がスムーズにでき楽しさを感じ自分に自信を持ってきている〉ことや「患者個々に統一したことができていると思うことがある」と〈与えられるだけでなく、自分の中で課題が明確になってきている〉ことから、入職後9ヶ月が経ち、神経・筋難病患者との関わりに自信をもち前向きに向き合っている姿と自己成長してきている自分を自覚し「前に比べたら前向きになった」「プリセプターのようにになりたい」と語り〈看護師としての将来像が明確となり看護師を続けていく自信となっている〉とこれからも今の職場で頑張っていこうとする前向きな気持ちとなっている。

【仕事に疲れを感じており前向きに捉えられない】では、新人看護師は、「先輩から不器用と言われ、自分もそう思っており看護師は向いていないと思う」と〈気持ちが追い込まれて自分の看護師としての将来への不安を感じている〉ことや「ストレスを感じて

いるのか分からない」と語り〈仕事と生活とのバランスが取れておらず、心に余裕がなく自分を肯定的に捉えられない〉と感じ、前向きに捉える気持ちの反面、他者からの否定的な言葉や出来事に対しては対応する気持ちにゆとりが持てていない。

考 察

入職後 3 ヶ月目の新人看護師は、慣れない環境への緊張と神経・筋難病患者と初めて関わることでコミュニケーションの困難さ、患者からの要求に答えることや技術の未熟さから言葉にできない多くの不安を感じていた。私たちは、患者との関わりの中で聞き取れない言葉を代弁したり、ケアの特徴や注意点を細かく説明しながら、一緒に関わる機会をとっていく必要がある。また、新人看護師が伝える言葉に耳を傾け、不安と覚えることをひとつひとつ聴きだし自信を持って看護実践できるよう支援していくことが重要である。

入職後 5 ヶ月目の新人看護師は、他者との人間関係が明確になり成功体験することも増え、患者との関わりにゆとりができ自ら考えて行動できるようになっている。神経・筋難病患者は長期の療養生活から、生活環境の変化をなかなか受け入れることができない。そのため、患者との信頼関係を築くことは非常に時間がかかり大変なことではあるが、新人看護師にとって看護の喜びと自信につながると考える。しかし夜勤が始まり、新人看護師は日勤勤務とは異なり時間的制約の中で患者個別に対応をすることが多く、これまでに経験したことのない体験や緊張により疲れが身体症状となって現れている。私たちは、夜勤で感じる不安や焦りを新人看護師自身が自ら伝えることができ、ひとつひとつのことが解決できるよう支援する。また患者との関わりからできること、頑張っていることを自ら承認でき、患者との関わりにくじけず前向きに実践できるよう支援していくことが重要である。

入職後 9 ヶ月目の新人看護師は、患者との信頼関係がとれるだけでなく、患者個々に応じたケアが自信を持ってできている。前向きな気持ちは職場でのやりがいを感じ、これからの課題も明確になり言葉で伝える

ことができている。その反面、患者からケアを拒否される体験や先輩からの否定的な言葉は新人看護師にとって自信喪失の引き金となっている。安藤²⁾は、神経・筋難病患者との関わりは「『関わりの難しさ』が難病経験年数にかかわらず、全ての看護職の自己効力感を低下させていることが示された」と述べている。私たちは、患者との関わりは新人看護師だけが感じる悩みでないことを伝え、話に傾聴していく。また、新人看護師の成長と一緒に喜び、これからもチームの一員として一緒に頑張っていくことを伝えることが重要である。

村田³⁾は、「できることを承認し、失敗体験については解決の方向を示すような固定的なフィードバックを行い、新卒看護師が達成感と自己の成長を感じられるような指導をすることが肝要である」と述べている。私たちは、新人看護師が患者との信頼関係を築くことができ、新人看護師の経験や体験したことから自信を持って看護を実践できるよう支援することが重要であると考える。

文 献

- 1) 坂野真理子他:神経難病患者をケアする看護師のストレスの傾向と対処方法,日本看護学会論文集 看護管理,42,P382,2012.
- 2) 安藤由佳子:神経難病患者をケアする看護職における離職・配置転換願望と抑うつに影響を及ぼす要因の検討,日本医療・病院管理学会誌,52(3),13,2015.
- 3) 村田尚恵他:就職6ヶ月後の新卒看護師の職業性ストレスと離職願望との関連性の検討,インターナショナルNursingCareResearch,13(3),P97,201

表1 新人看護師のインタビュー結果

入職3ヶ月目		入職5ヶ月目		入職9ヶ月目	
カテゴリ	サブカテゴリ	カテゴリ	サブカテゴリ	カテゴリ	サブカテゴリ
仕事や職場環境に馴染めず疲れを感じている	実施したことに対してこれからのことに対して不安であり、自信となるが見つけられない	仕事や職場環境に慣れてきて気持ちが安定している	職場環境に慣れてきて留んでいることはない	良好な人間関係を築くことができ自分の気持ちを言葉に表現できている	自分の居場所を見つけ気持の表出ができている
	職場の中に居場所を感じられない		仕事と生活のバランスが取れている		良好な人間関係が築けて周囲への感謝の言葉となっている
	体調が優れない		患者との関わりの中で仕事との楽しさを感じている		患者との関わりの中で看護師として認められて嬉しい
看護ケアや技術に不安を感じている	看護ケアや看護技術に不安がある	人間関係や経験を通じて看護師として認められやがいを感している	成功体験を通じて喜びを感じている	仕事や職場環境に慣れてきて気持ちが安定している	患者との関わりの中で自分の振り返りができている
	少ない経験の中で教えられることがすべてであると感している		先輩看護師との関係性が良いと感じている		仕事と生活のバランスが取れておりストレスとうまくつきあっている
前向きな気持ちで仕事に向き合っている	患者との信頼関係を構築している	経験したことを自分の中で振り返っている	経験すべきことを認識してその中でできていないことに対して不安がある	仕事や職場環境に慣れてきて気持ちが安定している	人とのつきあい方を学んでいる
	元気に過ごせている		自分がこれから気を付けていこうと思っていること		仕事が無事スムーズにでき楽しさを感じ自分に自信を持ってきている
	自立した看護師になりたいと思っている		自分がすべき課題を理解してきている		看護師を続けていくことへの自信が持て今後の課題を考えることができている
職場環境に慣れようと自分で努力をしている	相談相手があり、自分の居場所であると感している	仕事に疲れを感じ何も考えられない	自分の経験したことから振り返りを行い自分を追い込んでいる	仕事に疲れを感じており前向きに捉えられない	看護師としての将来像が明確となり看護師を続けていく自信となっている
	注意を払って看護ケアを実施している		仕事に対しての疲れを感じている		気持ちが追い込まれて自分の看護師としての将来への不安を感じている
	自分の中で時間配分をしている		意欲がわかない		仕事と生活とのバランスが取れておらず、心に余裕がなく自分を肯定的に捉えられない